



K.C. News
京都知福協だより

京都府の花しだれ桜
京都府の花しだれ桜

京都知的障害者福祉施設協議会
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202 <http://kyotifuku.jp> 発行人 樋口幸雄

- ◆「新型コロナウイルス感染症に関する本協議会の対応について」…………… 1
- ◆創立50周年記念誌の編集を終えて …… 2
- ◆創立50周年記念
絵画・ポスターコンテスト 開催結果 …… 4
- ◆生産活動・就労支援部会 研修会を終えて … 6
- ◆障害者支援施設部会「看護師意見交換会」報告 … 6
- ◆2018年度収支決算報告 …… 7
- ◆新規加盟事業所紹介 …… 8
- ◆ちょっとお・し・え・て …… 8



セクシー大根・面白大根
宇治川福祉の園
畑で収穫



新鮮で安全な野菜を提供できるように、利用者・職員一丸となって畑作業に日々取り組んでいます。市場に出ない色々な形の大根におめにかかれます。これも畑作業の楽しみです。大根以外では、人参・キュウリ・ナス・ジャガイモでも紹介したい作物が一杯あります。

新型コロナウイルス感染症に関する本協議会の対応について

京都知的障害者福祉施設協議会 会長 樋口幸雄



京都の街は、ここ数ヶ月で一変しました。海外からの観光客で溢れかえっていた光景はすっかり

消えて、一昔前の「京の街」に戻っています。言うまでもなく、新型コロナウイルスによる影響で

す。各分野の活動自粛を求める緊急事態宣言は4月16日から全国に拡大され、期限とされていた5月6日を迎えても京都府を含む13の特定警戒都道府県については再延長となりました。

会員事業所の皆様におかれましては、未だ事態収束の目処がたない中、強いご不安、危機感を感じておられることと思います。特に、ご利用者・職員の安全・安心を第一としなければならぬ日々の支援業務において、感染予防に必要なマスク・消毒液・検温計、万が一感染者が発生した場合に必要な防護服等の衛生用品が絶対的に不足する状況の中で厳しい運営を強いられながらも責務を果たされていることに敬意を表したいと思います。

当協議会は、3月中旬に会員施設・事業所に向けて新型コロナウイルスに関する緊急影響調査を実施し、9割を超える回答をいただきました。本調査の結果を踏まえて、京都府・京都市へ要望書として提出しております（報告書は本協議会HPに掲載）。さらに、京都府下障害関係4団体（京都社会就労センター協議会・きょうされん京都支部・京都精神障害者福祉施設協議会・本協議会）より「新型コロナウイルス感染症対策に向けての緊急要望書」を京都府・京都市に提出いたしました。本協議会のこうした取り組みに対し、京都府からマスク1万枚、さらに京都ボランティアアマゾン実行委員会様よりマスク1万枚を寄贈いただきました。

また、(公財)日本知的障害者福祉協会に対しては京都府における現状を報告し、国への要望に繋がっています。さらに、市町村別の影響も加味した影響調査を継続実施し、関係機関への要望に繋がっていきたく考えております。会員施設・事業所

におかれましては、引き続きアンケートへのご協力をお願いするとともに、ご要望等お聞かせください。

第58回全国知的障害福祉関係職員研究大会の開催延期について

新型コロナウイルス感染拡大の収束の目処がたない状況において、施設・事業所は対人援助業務という公器としての機能を最優先に果たすことを考え、規模の大小によらず、あらゆる催し・会合の中止または延期を余儀なくされております。

(公財)日本知的障害者福祉協会及び本協議会が主催する標記研究大会は、参加者・関係者の安全を第一に考慮した結果、日本知福協及び本協議会役員会の承認を経て、延期することとさせていただきます。ご理解賜りますようお願い申し上げます。延期日程は、2021年度内を予定しております。大会内容は変更せず、開催のあり方について再検討し、改めてご案内申し上げます。

創立50周年記念誌の発刊について

当協議会は、創立50周年記念誌「50年のあゆみ」を発刊し、会員の皆様お一人一人のお手元にお届けいたしました。改めて本協議会の歴史と設立趣旨を理解し、より質の高い福祉実践を重ねてまいりましょう。本誌の発刊にあたり、ご協力いただいた会員事業所、広報部会の皆様に心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に関しては、第二波、第三波が来るとも言われております。不測の事態に備え、衛生管理の徹底に引き続き取り組んでいただくことをお願いするとともに、当協議会としても対策に資する新たな活動を創造していく考えです。皆様のお体にもお疲れがでてくることと思っております。くれぐれもご健康にご留意ください。ようお願い申し上げます。

創立50周年記念誌の編集を終えて

座談会開始前の
打ち合わせ

編集委員各担当から



あしたー工房
平田 龍盛

編集過程では主に提出いただいた各法人の紹介内容の確認、修正を担当しました。法人の記事に関しては、ワムネットや各法人のHPとの照らし合わせを行う等、記事の内容を全て確認するのは時間がかかりました。しかし、それぞれの法人の特徴や取り組みをじっくり見る機会にもなったため、今後自分たちが行う活動の参考にもできました。



はなのき通所
高橋 正明

編集過程では主に、トピックスのページ（京都知福協広報紙から注目記事を抜粋して紹介するページ）のピックアップからレイアウトの提案までを、林さん・天野さんの3人で担当しました。手分けして200号を超える広報紙を読み直し、注目記事を抜粋する作業が大変でした。作業の中では一度メンバーが抜粋してきた記事を共有し検討を重ね、再度抜粋するということを繰り返しブラッシュアップしていきました。興味深い記事が多くあり、この記念誌を手にとった方が楽しく興味を持ってもらえるような記事を抜粋するという点が、どのような視点で抜粋するのかということが難しかったですが、過去の広報誌を見返すことで法制度の歴史を振り返る機会となり、勉強させていただくことができました。あとは最後の大役、編集後記も担当させて頂きました！



京都市大原野の杜
林 裕之

記事を選定する際は、一方向的な視点にならないように気を付けました。記事にそれぞれコメントを付けるのですが、要点からずれないように心がけました。このような部分に苦労しつつも、作業を通じて50年の歴史を垣間見ることが出来、やりがいを感じると共に、大変光栄でした。



ひなどり学園
天野 真弓

過去の記事選定作業は、楽しく、懐かしく読んで頂けたらいいなと思いつつも、記事に偏りが無いようにすることや、何を基準として選んだらいいのかというところに難しさがありました。発行当初は4コマ漫画が掲載されていたり、利用者さんの直接の声が書かれていたり、この編集に携わっていなかったら、50年前の記事もじっくり読むことが出来なかったと思います。

掲載とならなかったバックナンバーより

記念誌には「トピックス」として、過去のK.C. ニュースの中から、時代を問わず特徴的な記事を紹介するページを設けました。数ある掲載候補の中から惜しくも掲載とならなかった記事がありましたが、ここで3つの記事をご紹介します。

高齢者専用施設の建設、精神薄弱から知的障害への名称変更、ハートプラザの開設というニュースは、まさしく時代をあらわし、京都の障害福祉を牽引してこられた先達のお働きの成果と言えるのではないのでしょうか。

1991年
南山城学園
高齢者専用棟を竣工

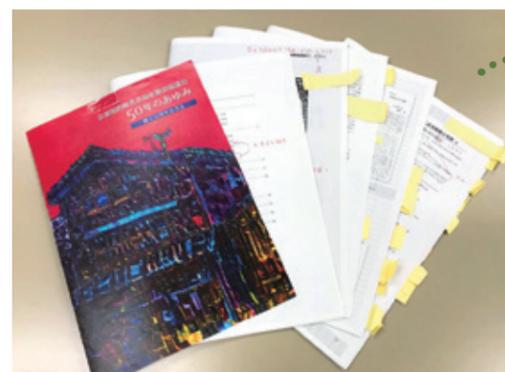
1997年
「ハートプラザ」
オープン！

1997年
「精神薄弱」から
「知的障害」へ
名称を変更

座談会オフショット



2019年3月13日、年度末で多忙を極めておられる中、京都知福協役員5名と顧問、司会者に寺本元副会長を迎えて記念座談会を開催しました。まだ制度が不十分で、施設数も数少なかった時代から、知福協が創立50年を迎えるまでの変遷を良く知る重鎮の皆さんですが、台本なし・撮影あり・文字起こしありという条件の中、時に緊張感の漂う座談会となりました。

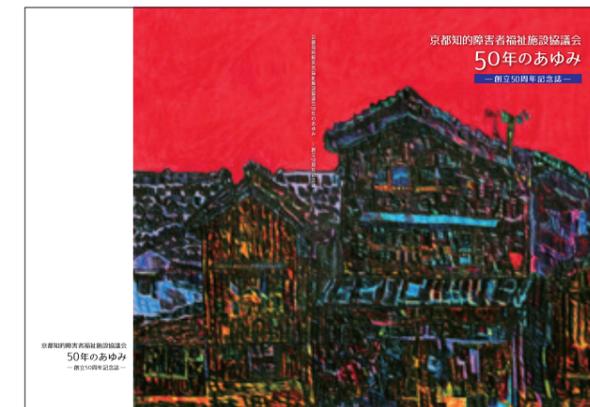


100ページ分におよぶ
記念誌の校正は根気の
要る作業となりました

会員施設職員さんの声

- 今までの歴史や過去の記事などを読むことができたので、少しでも京都知的障害者福祉施設協議会の歩みを知ることができたと思いました。
- 実践レポートでは支援の参考になるようなことが沢山書いてあり、日々の支援で実践していきたいと思いました。
- 加入事業所&法人紹介は、写真付きで見やすく様々な事業所の活動を知ることができ、同じ京都で一緒に頑張っていこう！と改めて感じました。

ご感想、ありがとうございました



「50周年記念誌」表紙

活動の経過

平成30(2018)年度広報部会活動計画に、広報部会が今年度の活動の一つとして記念誌の編集と発刊を担うことを位置付け、編集作業をスタート。

平成30(2018)年

- 9月 打ち合わせ開始、役員会へ素案を提案
- 11月 会員施設・事業所情報掲載について会員へ依頼
- 12月 第1回担当者会議

平成31(2019)年

- 1月 100頁・3,000部の発行とすることを役員会承認
- 2月 第2回担当者会議
- 3月 第3回担当者会議
- 創立50周年記念座談会
- 4月 第4回担当者会議
- 絵画・ポスターコンテスト募集開始
- 5月 第5回担当者会議
- 6月 第6回担当者会議
- 7月 第7回担当者会議
- 8月 第8回担当者会議
- 絵画・ポスターコンテスト入選作品が決定し、表紙絵が決まる
- 9月 第9回担当者会議
- 11月 第10回担当者会議
- 校了
- 12月 発刊



応募いただいた全91作品

(入選作品3点は4ページに掲載しています。ダイジェストのため、絵が一部分切れている箇所がありますが、ご容赦ください。)

京都知的障害者福祉施設協議会 創立50周年記念 絵画・ポスターコンテスト 開催結果

協会の創立50周年を記念して、ご利用者を対象とした「絵画・ポスターコンテスト」を企画し、募集を致しましたところ、大変多くの方よりご応募を頂戴しました。ここにコンテスト開催結果の概要をお伝えいたします。

主催：京都知的障害者福祉施設協議会 共催：京都知的障害児者生活サポート協会
募集期間：2019年4月15日(月)～2019年6月7日(金)
応募状況：9施設・48名・91作品のご応募がありました



会長賞「舟屋」
木村 全彦様
(社会福祉法人京都障害者福祉センター 京都市ふしみ学園)



サポート協会賞「オナガドリと桜公園II」
土屋 彰男様
(社会福祉法人修光学園 修光学園ディアコニアセンター)



特別賞「サイズアップ」
伊達木 英人様 (社会福祉法人向陵会 乙訓ひまわり園)



2018年度 (2019年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入合計	19,234,506
支出合計	12,035,303
差引残額	7,199,203
(残額は次年度へ繰越)	
事業振興基金	1,094,609

◆収入の部 (単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
会費収入		9,150,000	9,155,250	5,250	
	1. 日本知福協会会費収入	3,300,000	3,300,000	0	
	2. 近畿知福協会会費収入	200,000	196,000	△ 4,000	
	3. 京都知福協会会費収入	5,650,000	5,659,250	9,250	
補助金収入		200,000	208,977	8,977	
	1. 京都府補助金収入	90,000	90,000	0	クラシックコンサート補助金
	2. 京都市補助金収入			0	
	3. 日本知福協補助金収入	110,000	118,977	8,977	地方会助成
寄付金収入		0	0	0	
	1. 寄付金収入	0	0	0	
委託金収入		2,000,000	2,100,000	100,000	
	1. 委託金収入	2,000,000	2,100,000	100,000	京都知的障害児者生活サポート協会・近畿知福10万円
協賛金・助成金収入		2,000,000	2,100,000	100,000	
	1. 協賛金・助成金収入	2,000,000	2,100,000	100,000	京都新聞・生活サポート協会 クラシックコンサート協賛金
雑収入		100,110	94	△ 100,016	
	1. 雑収入	100	84	△ 16	預金利息
	2. 研修参加費収入	100,000	0	△ 100,000	
	3. 事業振興基金利息収入	10	10	0	
積立金取崩収入		0	0	0	
	1. 事業活動積立金取崩収入				
繰越金		5,670,185	5,670,185	0	
	1. 繰越金	5,670,185	5,670,185	0	
収入合計		19,120,295	19,234,506	114,211	

◆支出の部 (単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
分担金		3,830,000	3,740,000	△ 90,000	
	1. 日本知福協会会費支出	3,300,000	3,300,000	0	事務局経由分
	2. 近畿地区知福協会会費支出	200,000	196,000	△ 4,000	@2,000×98
	3. 府市施設協議会分担金支出	330,000	244,000	△ 86,000	府施設協・市施連協
事務局費		5,462,160	4,890,339	△ 571,821	
	1. 職員雇用費	2,300,000	2,300,000	0	事務局職員
	2. 役員費	300,000	185,762	△ 114,238	郵送料、振込手数料、電話代
	3. 需用費	400,000	447,983	47,983	事務用品、印刷代、ホームページ作成費等
	4. 備品費	100,000	53,254	△ 46,746	会計ソフトサポート他事務備品等
	5. 旅費	900,000	608,570	△ 291,430	部会協議会、関係団体等会議出席、事務局等旅費
	6. 会議費	200,000	154,010	△ 45,990	役員会会場費等
	7. 慶弔費	50,000	10,000	△ 40,000	
	8. 雑費	100,000	18,600	△ 81,400	支援機構会費・保険料他
	9. 賃借料	723,360	723,360	0	事務所賃借料43,000/月 コピー機17,280/月×12月
	10. 業務委託費	388,800	388,800	0	弁護士顧問料
部会活動費		3,390,000	3,021,784	△ 368,216	
	1. 広報部会活動費	700,000	439,325	△ 260,675	「知福協だより」等
	2. 行事・文化部会活動費	2,690,000	2,582,459	△ 107,541	クラシックコンサート・ミニコンサート・風船パレー他
委員会費		1,300,000	223,226	△ 1,076,774	
	1. 政策委員会費	100,000	23,594	△ 76,406	
	2. 研修委員会費	900,000	199,632	△ 700,368	
	3. 人権・倫理委員会費	250,000	0	△ 250,000	
	4. 支援スタッフ委員会	50,000	0	△ 50,000	
種別部会費		310,000	159,954	△ 150,046	
	1. 児童発達支援部会費	20,000	0	△ 20,000	
	2. 障害者支援施設部会費	50,000	37,240	△ 12,760	
	3. 日中活動支援部会費	60,000	35,830	△ 24,170	
	4. 生産活動・就労支援部会費	40,000	0	△ 40,000	
	5. 地域支援部会費	60,000	78,234	18,234	
	6. 相談支援部会費	80,000	8,650	△ 71,350	
積立金支出		0	0	0	
	1. 事業振興基金積立金支出	0	0	0	
	2. 事業活動積立金	0	0	0	
予備費		4,828,135	0	△ 4,828,135	
支出合計		19,120,295	12,035,303	△ 7,084,992	

生産活動・就労支援部会 研修会を終えて

社会福祉法人菊鉾会 事務局長
生産活動・就労支援部会 副部長
野村 尊実

2月26日に日中活動・就労支援部会の研修会を開催させていただきました。

今回の研修会は私の方で企画運営をさせていただくということで、内容が濃く、参加していただいた方に少しでも多くの気づきのある内容にしようと準備を進めさせていただきました。

1日で3施設の見学と講演会というハードスケジュールにはなりましたが、8名の方に参加いただき、少人数ならではの濃い質疑応答もあり、実りのある時間とすることが出来たと思います。

一箇所目は三条京阪の旅館「日昇館尚心亭」にて実際の就労の現場の見学をさせていただきました。客室清掃の様子や社員の皆様との接し方を間近で見られる貴重な機会となりました。



日昇館にて障害者雇用の課題に触れる



燻製京だし醤油イブリテイ製造の見学



黒澤氏の講演



クラフトビール製造の見学

た、障害者雇用をする企業側の課題についても知ることで、今後より一層就労支援施設と一般企業とのつながりの強化が必要と感じました。

二箇所目はテンダーハウスにて今期から開始した事業「燻製京だし醤油イブリテイ」について、作業現場の見学と事業立ち上げの際の考え方について、私の方からお話しさせていただきました。初期費用や人的リソース、作業スペースなど福祉施設が新規事業を始めるにあたっての課題を解決する「スマールスタート」という考え方が、少しでも皆様のヒントとなれば幸いです。

続いてテンダーハウスにて講演会として、株式会社ブランドイングテクノロジより黒澤友貴氏を講師にお呼びして「福祉施設におけるマーケティング」についてお話しいただきました。福祉施設の理事としても活躍される黒澤氏に、就労支援施設で活用出来るマーケティングの知識についてわかりやすくお話しいただきました。この講演は特に好評で、さらに時間をとって話を聞きたいという方が多く、時間が長引いてしまっほとでした。

施設見学としては三箇所目のHEROESに場所を移動して、自閉症支援についての考え方を学ぶとともに、クラフトビールづくりの視察も実施いたしました。本格的な醸造設備やビールの充填設備など見応え抜群な内容となりました。そのまま情報交換会へと移り、西陣麦酒の新品の試飲もさせていただきました。非常にも熱い情報交換の場とすることが出来ました。

至らぬところも多々あったかと思いますが、また多くの学びにつながるような研修会を実施いたしますので、奮ってご参加いただければと思います。

障害者支援施設部会「看護師意見交換会」報告

社会福祉法人南山城学園
障害者支援施設部会 部会長
山代 浩史

障害者支援施設部会では、施設で仕事をされている専門職の方の情報共有や連携を図るため、これまでも栄養士の意見交換会などを実施してきました。

今年度は新たな取組みとして、施設の看護職員の方を対象に意見交換会を開催しました。

2月27日の午後、京都社会福祉会館にて、年度末の多忙な時期にも関わらず、入所施設の方だけではなく通所施設の方も含めて13名の方に参加いただきました。

意見交換会は、障害福祉サービス管理者で看護師でもある社会福祉法人ディアレストの高岡歩さんに「障害福祉サービスにおける看護師の役割」というテーマでご講演頂き、その後、事前に伺ったテーマを中心に参加者同士で情報交換や意見交換を行いました。



参加者の皆様



意見交換会の様子



ディアレストの高岡氏(写真奥)

日々の支援現場における看護の課題や、施設が抱えている課題に対しての具体的な取組みや対応策を共有出来る機会となりました。

参加者アンケートからは「参考になる話を聞けたり、勇気づけられた時間でした」、「ネットワーク作りのきっかけを頂き有難うございました」といった声も届いており、参加された皆さんにとって有意義な時間となったのではないかと思います。

障害者支援施設部会では、施設の中で一人仕事になってしまいう可能性の高い専門職の方が、課題を一人で抱え込まないよう情報共有の機会を作り、困った時に直接連絡して相談できるような、専門職同士のネットワーキングに取り組みしていきたいと考えています。

専門職意見交換会は引き続き実施していきますので、会員施設の皆さまからのご参加をお待ちしています。

お礼とご報告

◆ 新型コロナウイルス感染症拡大によりマスクが不足する中、京都府および京都ボランティアアマゾン実行委員会様より各1万枚のマスクを寄贈いただきました。いただいたマスクは会員事業所へ配布し、大切に利用させていただきます。ありがとうございます。

◆ 本年9月に開催を予定しておりました第58回全国知的障害福祉関係職員研究大会京都大会は、新型コロナウイルスの全国的な蔓延により、2021年度へ延期となりました。期日が決定次第、あらためてお知らせいたします。

◆ 今回発行のK.C.ニュース(第206号)は3月末発行を予定して編集を進めておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、編集作業が大幅に遅れてしまいました。記事の内容が発行時期にそぐわない部分がございますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

新規加入施設紹介

社会福祉法人 宇治東福祉会 デイセンター宇治作業所

管理者 ● 尾崎 賢太
所在地 ● 京都府宇治市五ヶ庄二番割5-2
事業種別 ● 生活介護事業



デイセンター宇治作業所は、「なかまの想いに寄りそい、ゆたかな明日をめざします。」との法人理念に基づき、知的障害や自閉性障害、身体に障害のある方などに対して、作業と生きがいづくり・訓練を日課として取り組み、毎日笑顔であふれ一人ひとりの個性を大切にしながら、楽しい集団づくりを目指し、日々を過ごしています。

作業では箱折りや紙粘土でのデコペンづくり、手づくりパンの配達作業、近隣地域への市政だよりのポスティング作業などを中心に行っています。生きがいづくりでは、音楽を通じて、大きな声で歌う喜びや身体を動かして自己表現する楽しさを感じる「音楽活動」を行っています。また、外に出かけたり、お菓子作りなど様々な生活体験や理学療法士による機能訓練、看護師と連携した日常的な健康管理に努めています。

そして、ワークセンター宇治作業所・宇治作業所のびのびの2施設とグループホームなどと連携をとりながら、生活全般の充実を図っています。



ちょっとおしえて

不適切表現・NGワード



「促す」と「拒否」とが……

え〜っ!!それってダメなの〜??

日々の支援記録で利用者さんが、頼んでも動いてくださらない時に『職員が〇〇さんに△△するように促し』ましたが『〇〇さんが△△を拒否された』と書きませんか?ほかの職員もそのように書いているよね……。

職場のAさんが研修会で支援記録の書き方を勉強してきて、会議で研修報告しました。その時何人かの職員から「え〜っ!!」という声が上がりました。何故ダメなのでしょう?

そもそも「促す」とは……

この言葉は日本全国で記録にかなり使用されていると聞きます。言うまでもなく命令形の表現なので、支援記録には使わないのが基本です。国語辞典には「早くするようせきたてる・催促する」とあります。ではどのように表現したらよいのでしょうか?

「して頂く」とか書くようにしては、「~を勧める」という言い方も。

また、「拒否」という単語については……

「作業を拒否した=作業拒否」という言い方は、「作業に誘ってもらったが拒否した(はねつけた・拒んだ・ことわった)」というように、本人が使う言葉であるはず。記録に使うと問題行動として支援者側がとらえている様子が見えてきます。「拒」には「相手を寄せつけない」、「寄せつけないで守る、拒む、ふせぐ」という意味があることを考えると、拒否

は利用者さん本人の言葉として発するのが正解。

- ・したくないから拒んだ
- ・誘われ方(態度や言葉遣い)が気に入らなかつたから拒んだ
- ・誘った人が気に入らなかつたから拒んだ
- ・言っていることがわからなかつたから拒んだ
- ・気に入らないことが起こつたから拒んだ

つまり、拒むには拒むなりの理由があるはずで、理由があるからしたくないのは『ひとの常』。だとしたら、我々が使う表現としては「△△に誘ったけれど□□の理由によってしようとしてくれなかつた」となり、しかも誘った自分に問題があつたという自覚があれば「拒まれてしまった・お断りされた」となるのではないのでしょうか。普段、私たちも今日は仕事したくないかな?と思つたり面倒だなあと思つたりした時に決して『拒否』とは言いませんね。それなのに記録に拒否と書かれると利用者さんが悪者になってしまうのでは……。

支援現場での、職員が利用者さんに対して行ったこと・利用者さんの表情・話した内容・解決したことなど、文章を見てその光景がわかるように書きたいものです。後日読んで状況がわかると次回のアプローチの参考にともなります。記録を残すことで、適切な支援を行ったという証拠にもなります。支援内容も文章に残っていないければ、それを行ったという証拠にならず、事故や不具合がおきた時に証明することができなくなります。記録を正確に書くことは利用者さんも職員も守ることにつながるのではないのでしょうか。(宇治川福祉の園 田中秀興)

この号が発刊される頃、新型コロナウイルスやインフルエンザは終息しているでしょうか。ただ、ウイルスは常に変異と増殖を繰り返して少しずつ形を変えていき、時に大きく形を変えて大流行を起こします。各施設での対策も必要ですが、国や自治体として施設の状態に応じた具体的な対応策をお願いいたします。

(るりけい寮 今西重人)

編集後記

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。私がこの原稿を書いている2月中旬、新型コロナウイルス「2019-nCoV」が国内各所で広がり、感染経路がたどれなくなっています。厚生労働省が対応策を出すのですが、テレビ等の報道でいろいろな解釈をされるため具体的にどうすればよいのか判断できない状況でもあります。また、軽症・無症状の感染者も多く、今後どのように広がりどれだけ重症者・死亡者が出るのか不安です。

